

# ドライブ・テクニック

CORONA *MARK II 1700 / 1900*



# 経済的な運転

**1. 車速にマッチしたまめなギヤの変速を行なってください。**

低速ギヤで高速までひっぱったり、トップ・ギヤでノッキングさせながら走るのはエンジンに悪影響をおよぼすばかりでなく燃料消費を増大させます。

**2. 加速はゆるやかに行ない不必要な急加速、急ブレーキは慎んでください。**

また、所要のスピードまで加速したらできるだけ一定のスピードで走り続けます。これが燃料節約の秘けつです。

**3. 不要な高速走行は慎んでください。**

**4. 正しい取り扱いと十分な定期点検をすることにより、車の性能を100%発揮させることは、燃料消費を節約するものになります。**

**5. 発進、停止の回数はできるだけ少なくしてください。発進時には多量の燃料を必要とします。**

**6. エンジンの冷え過ぎは熱効率を悪くし燃料を増大させます。寒冷時のエンジ**

ンが暖まりにくいときには、エンジン前面に適当なおおいをして冷却水温が80℃前後になるようにしてください。

## ブレーキの上手な使い方

ブレーキを踏む場合は、周囲の状況に注意してください。特に後続車が接近して走っているときは、一、二度軽くブレーキをかけ、後続車に注意をうながしてください。

高速で走行している場合、また長い下り坂や急な下り坂では、フット・ブレーキに頼らず、エンジン・ブレーキを使用するのが安全です。フット・ブレーキは要所だけ使用するようにします。

坂を下る場合、ギヤは登りのとき使ったギヤを使うのが基本です。ただし、トヨタグライド車においては、適宜②レンジまたは①レンジにシフト・ダウン(後述)します。

もし、フット・ブレーキだけで長い坂を

下りますと、フェード現象やペーパー・ロック現象(後述)を起こし、ブレーキが効かなくなることもあります。

また、降雨時とか水たまりを走行しますと、ブレーキ・ドラム内に水が浸入し、一時的にブレーキがきかなくなることがあり、危険です。このようなときには、安全のため速度を落とし、ブレーキ操作をくり返しながらしばらく走りますと、ブレーキ・ライニングの湿りが早く乾燥し、ききがよくなります。

### ■フェード現象について

ブレーキの摩擦面が過熱すると、摩擦係数が急激に低下して、摩擦力が減る結果同じ力でブレーキ・ペダルを踏んでも制動距離が非常に長くなるか、きかなくなる現象をいいます。

### ■ペーパー・ロック現象(ブレーキ)

ブレーキが極度に過熱されますと、ブレーキ・フルードが沸騰し、あわができません。したがって、ブレーキ・ペダルを踏む力は、あわを圧縮するだけでライニングを押し付ける力にならず、制動力がきわめて低下する現象をいいます。

### ■シフト・ダウンについて

高速で走行している場合はフット・ブレーキによらず、エンジン・ブレーキを使用するのが安全です。

また、緊急にブレーキをかけたい時や下り坂では、エンジン・ブレーキを併用するのが得策です。

シフト・ダウンは次の車速以下で行なってください。あまり高い速度のときシフト・ダウンを行なうと、エンジンが過回転して、損う場合があります。

### ■ミッションの場合

ローへ	45 km / h 以下
セカンドへ	80 km / h 以下
サードへ	125 km / h 以下

### ■トヨグライドの場合

ローへ	70 km / h 以下
セカンドへ	105 km / h 以下

## 雪路、凍結路の注意

雪路とか凍結路を走るには、スノー・タイヤまたはタイヤ・チェーンが必要です。

スノー・タイヤまたはタイヤ・チェーンの使用が、条例により義務づけられている地域もありますのでご注意ください。スピードの出し過ぎ、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは非常に危険です。アクセル・ペダルの操作により、うまくエンジン・ブレーキで減速を行ない、スピードをコントロールしてください。

このような路面でブレーキを踏みますと簡単にスリップや横滑りを起こします。したがって、急ブレーキを踏まなくてすむように、前車との間隔を十分広くとりブレーキを断続的に使用するようにしてください。

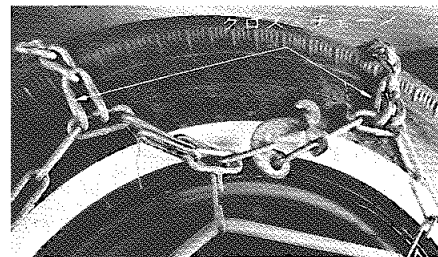
もし、車が横滑りをはじめたら、ブレーキ・ペダルを離して車の進路をたて直します。タイヤがロックしますと操向不能

になります。

雪が少し積もった程度で凍結していなくても同様の注意を払ってください。

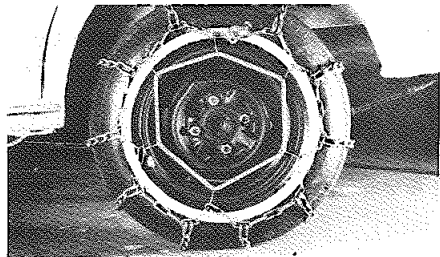
タイヤ・チェーンを付けると、駆動力、および制動力は増しますが、横滑り防止の効果はほとんどありませんので、ご注意ください。

### ■タイヤ・チェーンの付け方



タイヤ・チェーンは普通後2輪に付けます。まず、輪止めをし、ジャッキ・アップをして、タイヤ・チェーンのクロス・チェーンの折り典げが写真のように外側になるように、タイヤの上からかぶせ、チェーンの両端を連結します。チェーンを連結するときは、クリップをできるか

ぎり奥の環へかけ、タイヤの内側を先にかけます、余った環は針金などで結び、ほかに当るのを防止します。



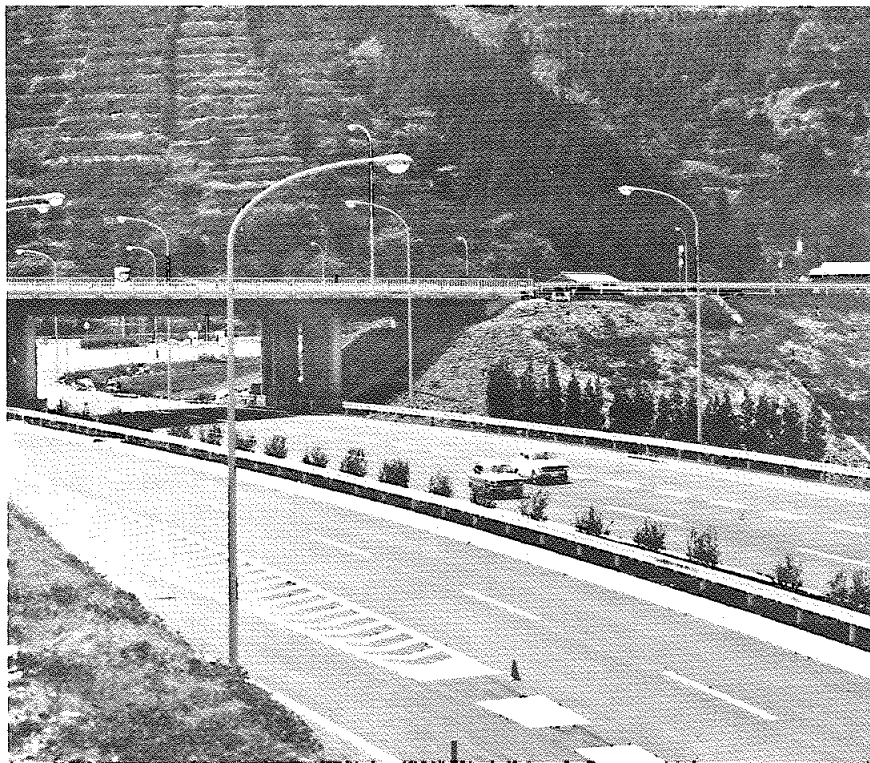
つぎに、チェーン・スプリング・バンドの各爪を外向きにしてかけ、チェーンの環を張ります。

スペア・タイヤにタイヤ・チェーンを装着し、タイヤを取り換える方法にすれば比較的簡単に作業が行なえます。

ラジアル・タイヤにタイヤ・チェーンを装着し、非雪路にさしかかった時は、必ずタイヤ・チェーンを取り外してください。

そのまま、走行しますと、サイド・ウォール（タイヤの横の部分）を損傷することがあります。

## 高速道路走行の場合の注意



①＝高速道路の本線への進入は、本線上の車に注意し、加速車線を一気に加速して、十分車速がついてから、ターン・シグナルを出してはいきます。

②＝車間距離は十分保ちます。100km/h 時には100m以上保ちましょう。

③＝高速での急ハンドル、急ブレーキはもっとも危険です。

④＝追い越しは、前もってターン・シグナルを出し、前後、特に追い越し車線の後方に注意し安全を確認したうえで、追い越し車線にはいります、インサイド・リヤ・ビュー・ミラーに追い越した車の右のヘッドランプが見えるまで追い越し車線を走ってから、ターン・シグナルを出して走行車線に戻ります。

⑤＝道路標識に注意しましょう。高速道路では、行き過ぎても戻ることができませんので、出口の標識には特に注意してください。

⑥＝高速道路から出るときは、出口の案内標識に注意し、減速車線で十分速度を落します。ランプ・ウェイでは、制限速

度を厳守しましょう。

⑦＝一般道路に戻りましたら、高速道路と同じ運転感覚で走行しますと、ついスピードを出し過ぎますので、ご注意ください。

⑧＝降雨時、特に水はけの悪い舗装道路を高速で走行する場合は、タイヤの接地力が低下いたしますので、急ブレーキ、急加速、急ハンドルなどは慎しみ、スピードも控え目にします。

## 緊急処理

### 1＝ブレーキがきかなくなったとき

万一、フット・ブレーキがきかなくなりましたら、あわてずに、ギヤをシフト・ダウンし、パーキング・ブレーキをいっぱい作動させて車を止めます、

### 2＝エンストしたとき

踏切りや交叉点でエンストし簡単に始動できないときはスターターで車を動かすことができます。

平坦路ならギヤをトップへ入れアクセル・ペダルをいっぱい踏んでスターターを

まわします。スターターは長時間（20秒以上）作動させますと損うことがありますのでご注意ください。

### 3＝オーバーヒートしたとき

オーバー・ヒートのときは、次のような現象があらわれます。

水温計の指針が110℃を越え、エンジンからキンキン音が発生したりして、極端に力がなくなってきました。またラジエーターから蒸気が吹き出します。

このような時にはすぐにラジエーター・キャップをはずさないでください。蒸気が噴出して火傷することがあります。

オーバー・ヒート気味のときは次の処置をとってください。

(1)車を止め、エンジン・フードを開けて通風を良くする。

(2) エンジンをアイドリング回転より少し高め(1500回転位)にしてしばらく(5分～10分)運転する。

しかし、ファン・ベルトの切損(チャージ・ウオーニング・ランプが点灯する)ラジエーター・ホースなどからの水漏れ

やラジエーターから蒸気が吹き出しているときには、エンジンをすぐ止めねばなりません。

(3) 水温が適温になりましたらエンジンを止めます。

(4) オーバーヒートしたときは、冷却水が少なくなっていることがありますので、冷却水の点検・補給をしてください。**このとき、急にラジエーター・キャップをはずすと、熱湯が噴出して火傷することがありますので、キャップに布を巻きつけ、徐々にまわし蒸気を逃がしてから取りはずします。**

夏期は外気温上昇のため手入れ不十分な車はオーバー・ヒートを起こす危険性がありますので次の事項にご注意ください。

(1) 冷却系統（ラジエーター、ヒーターなど）に水漏れのあるときは、取扱店のサービス工場で点検をうけてください。

(2) ラジエーターの冷却フィンにゴミやこん虫が付着し、冷却効果を阻害していることがあります。

(3) ファン・ベルトの張り具合は正常ですか。(お出かけ前の点検 45 頁参照) 冷却系統が完全でも、長い坂道を登り続けているときや混雑した市内を長時間、ノロノロ運転を続けているときに水温計が 100℃を越えることがあります。しかし、トヨタ車のラジエーターは、加速式を使用していますので水温が 100℃を少し越えましても、ラジエーター・キャップを外さないかぎり冷却水は沸騰いたしません。このようなときには次のような運転をしてください。

(1) 交差点など減速するときは、フット・ブレーキをなるべく使わないで、エンジン・ブレーキを多用してください。

(2) 特に長い坂道を登るときは、エンジンの低い回転数のところで無理をしないでミッションのギヤーを一段おとし、エンジンの回転を上げて登るようにしてください。

(3) 交叉点などで停止したときは、アクセル・ペダルを踏く軽んで、エンジンの回転を 1500 回転位に高目にして、待

機してください。冷却効果が大きくなります。